

## D. 継続的・計画的な進路指導についての研究

鈴木洋一郎 原田 秀雄 中野 満男 加藤 剛  
倉田 有邦 高橋みな子 北田 明子 富田 昇  
阿部 健一

第3年目の研究の結果を報告する。われわれが能力別指導やそれに伴うカリキュラムの在り方、更に進路適性指導といろいろなテーマをもって研究を始めてから3年、今までその成果をまとめて来た。従来進路指導は高校教育の究極の目標の一と考えられながらも単なる受験指導に陥りがちであった。ベビーブームという大学受験難の現今には大学側からも社会経済界からも高校への要請は誠にきびしい。この嵐の中にあつてわれわれはあくまで高校教育の在り方を見失わず、入学当初から継続的にかつ計画的な進路指導を研究しようとした。この報告は本校における研究協議会のもを基にしてまとめたものである。なおこの研究にあたり学部統・大西・小堀教授・丸井助教授の御指導をいただいたことを付記する。

### I 高校における進路指導の問題点

#### 1. まえがき

最近の「進路指導の充実強化」という教育施策は技術の革新・貿易の自由化という国際的な市場獲得の要請のもとに、経済開発や社会開発などから発想された人的能力の開発一人づくり一が強調されるようになった。従来の「すべてのものへの完全な中等教育を」というスローガンから「激化する産業経済社会に対応する能力のあるものを」という所謂イギリス的能力主義へ移行しつつある。これらアメリカ的平等主義の考え方が止揚されつつある傾向は、教育原理の上では現代中等教育の特徴の一つであろう。

「適性・能力に応ずる進路指導」は人的能力を開発し適材適所にと社会的効果を目ざしているのであるが、生徒の多様な能力の実態を把握しその適性を正確に発見しそこから計画的な進路指導がなされなければならない。このレポートは過去2年間に報告した進路指導のあり方とHRTの指導などに引き続いて、指導実践から得た問題点に私見を述べてこの研究の結びにしたいと思う。

#### 2. 後期中等教育における進路指導の問題点

以上述べたような社会的情勢において教育内容の質的向上が望まれる一方、高校進学率の増加のために生徒の質的水準が次第に低下している。この現況に対して産業界・経済界から数次の咨問や答申が行なわれ、更に中教審からは「期待される人間像」について意見

が述べられるなど、後期中等教育への要求は激しいものがある。また高校長協会においても普通課程に6コースを進路に応じて設けることを提案し、更に当局は一県に理数科コースの高校設置を具体化するように要望している。このような現実的な要請または動向において進路指導を単なる「就職斡旋」とか「受験係」の問題と考えることはできない。

「能力に応じた進路指導」を正しく実践させる基盤は現在の高校教育の中には発見しがたい。近年のベビーブームのため受験難が激しさを加えるに従い、生徒は入試に直接関係のない科目を軽視して受験準備に熱中し、正しい能力主義に立とうとする進路指導を困難にしている。進路指導は生徒の能力をテストの成績で判定してその優劣によってコース分けをするという便宜主義・能率主義的な方法がとられ、「進路に応じた能力指導」に陥っている傾向である。

#### 3. 本校における進路指導上の問題点

##### 1. 特活と進路指導

特活が教科や学校行事等とともに教育課程の一つの領域であり、教育目標を達成するためには、HR・生徒会・クラブ活動への積極的な参加が要求されている。しかし、生徒はこれらの活動にどんな意識をもち、態度を示しているのだろうか。これについては次の

ア. クラブ活動への参加状況

イ. 生徒会活動

ウ. HRのロングタイムの利用

の三点のうち、特に学年進行につれて不参加率の高い

## D. 継続的・計画的な指導についての研究

クラブ活動を中心にしてその実態を明らかにしてその問題点を考えてみたい。

### 2. 生活指導と進路指導

誤ったまた不十分な進学指導によって入学した学生の不適応な現象—留年や転学科の問題—は新聞の話題となっているが、これと同様に高校においても在学中生活に興味を失い衝動的に行動し登校拒否や非行化する傾向が一般としてないわけでもない。進路指導が大学入試のみ目標とする結果、

ア. 誤った勉強態度からの学習意欲の喪失

イ. 特活の軽視

ウ. 生徒・教師間または生徒相互間の意志の疏通の  
欠乏や感情の対立・不信感

エ. 反社会的または非社会的問題

などが考えられるが、これらは生徒指導グループのテーマにも関係するので、これらの問題の有無についてのみ「悩み」の調査においてその実態を把握しようとした。

### 3. 適性と進路指導

適性……この語の内容定義は一定していない。「ある知識や技能獲得の可能性の度合を示す徴候あるいは状態」といい、また「興味関心や意欲努力によって変わりうる」と比較的流動性をもつものと解釈するものもある。適性は先天的にも後天的にも性格の諸特性となるが、教科については適応—得意科目ともなる。高校時代にはこれらの能力が顕著にあらわれ、伸びるものであるからその契機を発見し指導することは極めて重要なことである。

適性の検査・資料……数年前の進学適性検査（S・A・T）は大学受験生の教養一般適性と推理力中心の理科的思考力と理解力中心の文科的思考力との分離適性を計測するのを目的としていたが、このような何らかの方法で生徒の能力・傾向・性格・関心の程度を検査することは進路指導上必要である。本校においては適性（文理科の関心傾向）と性格（パーソナリティ）の簡単な調査を試みたが、これに知能・作業検査なども加えてみたい。また進学を希望している学部・学科の課程に対応する好悪や思考の傾向というものを考える必要もある。

### 4. 進路指導の組織と運営

高校の進路指導は中学教育の基礎の上に立って、大学へ進む能力適性を発見して生徒の進路決定を実現させるものであるが、また進学後の学部への適応の実態を追跡することにより指導効果が確かめられる。しかし現実的には受験競争の激化のために指導の技術的側面だけが強調され、慣習的に不十分なプランで指導が行なわれている。このような条件の中で進路指導を効果的に推進するためには、制度の上からも経営の点から

もその組織を検討し合理的な運営を考えなければならない。この点に関して先に県下公立高校へのアンケートと本校の実態から問題を提起すると、

ア. 進路指導部の運営は十分に行なわれているか。

アンケートでも明らかのように二、三の高校は進路係または進路課として教務部もしくは指導部の中で担当させているが、多数の場合は、進路指導部として運営している。教科指導と生活指導の二面をもちこれらの機能を統一し進学・就職へと推進させるためには当然独立した部が必要となってくる。しかし超教科的な運営とか生徒指導との関連とかにおいては十分とは言うことはできない。この点組織の実態を検討すると、

1. 進路指導組織の検討は十分に行なわれているか  
進路指導組織には、企画・研究と指導実践の二つの面がある。前者は部長または係として指導計画・指導助言・各教科連絡調整の機能をもち、調査をし資料を収集し、また組織内容を高める研究をするのであり、後者は次のようなものが考えられる。

1. 受験校の理解とそれへの適性能力からの検討
2. 合格可能性の予断とその決定
3. 受験したり入学のための準備

これらによって組担任の進路指導に協力した教科担任などとの連絡調整ができる。以上述べきいたことは公立高校における組織運営の調査によっても明らかなどころである。

### 5. 進路指導の実践とその問題点

進路指導はその対象により次の三つの方法が考えられる。まず学年全体に対して、次にクラスの指導、そして個人指導であるが、主として学年の進路指導の問題点をあげてみる。

1. コース別か、能力別か

現在、数学・理科（物理）においてはコース別を加味した能力別の指導を実施し、国語・英語でもその科目の中で能力別に分け、また理科・社会もコース別を考慮した科目選択制を採っている。1学年3クラス編成ということと入学当初から能力の上下の格差の大きい生徒構成とのために、このような能力別とコース別とを適宜にとり入れた進路指導は必要であると考えられる。

2. 実力テストのあり方とその指導

進路指導の資料として実力テストの果たす価値は大きい。受験生に対してはそのテスト成績が受験校の可含を決定してしまうほどである。しかしこのテストへの考え方は各教科とも一致していない。学習の効果をみようとする実力の診断性と大学入試の演習とみる模試性とがあるが、後者の場合が強調されている。そしてこのテスト結果を重視するあまりその事前の指導や直後の処理について十分な配慮がな

されていない。

- ア. テスト回数は指導期間を考慮されているか。
- イ. テストの範囲と受験準備の指導は十分か。
- ウ. 問題の難易, 標準得点を示してあるか。
- エ. 受験者の得点予想の指導
- オ. 模範解答の発表
- カ. 得意不得意科目の判定と問題の盲点指摘
- キ. 適性および志望コースへの合否予見

なおこのテストの外に毎学年1回適性コース発見の検査を定期的かつ継続的に実施し指導の一資料とする必要を感じている。

#### 4. 進路指導に関する実態調査

進路指導においては絶えず生徒の実態が把握されていなければ、その効果は期待されない。この研究は実践をしながら基礎的な調査から出発しようとした。この観点に立って前年に継続して次のような項目について調べてみた。

て調べてみた。

| 調査項目    | 調査対象    | 調査の目的      |
|---------|---------|------------|
| ① 組織と運営 | 公立高校40  | 進路指導のあり方   |
| ② 能力の実態 | 高1 147  | 能力別指導の基礎資料 |
| ③ 授業と学習 | 高1 147  | 能力差の原因     |
| ④ 「悩み」  | 高1 147  | 生活指導との関係資料 |
| ⑤ 適性と傾向 | 高2 146  | 適性と文理科傾向   |
| ⑥ 指導の効果 | 卒業生 206 | 指導効果の確認と反省 |

表中の①②……は後掲の調査番表を示す

進路指導組織・運営の調査 調査①

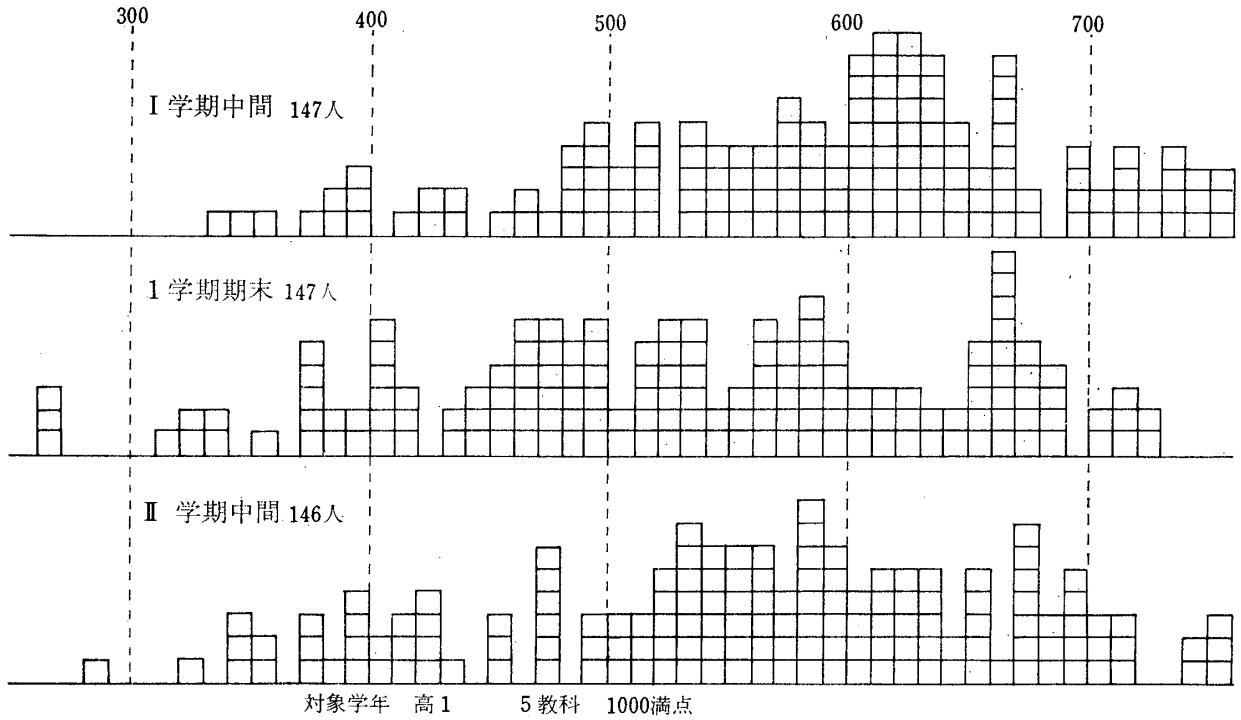
| 事項    | 実施校        |  |   |
|-------|------------|--|---|
| 組織と名称 | 校務分掌における位置 | ア. 独立の部として 35<br>イ. 係として部内に 教務1 指導2<br>ウ. その他 学年主任など 2 |   |
|       | 名称         | ア. 進路指導部 35<br>イ. 進学係 2<br>ウ. 学年主任 1<br>エ. 進路課 2       |   |
|       |            | 調査・情報 進学に関する調査研究資料                                     | よくやっている 38<br>余りやらない 2                                    |
|       |            |  | 連絡 教科連絡調整の機能の中心   |
|       |            | 企画・検査 年間指導計画生徒の諸検査                                     |   |
|       | 責と経費       |  | 進学相談 指導相談 34<br>相談室 余りやらない 6<br>あり 資料保管 17<br>ない 職員室にて 23 |
| 進路指導費 |            | 予算に計上 35<br>随時 5<br>なし 0                               |   |

| 事項      | 項目        | 実施校                              |  |
|---------|-----------|----------------------------------|--|
| 進路指導の実態 | 調査・検査     | ア. 教科の成績調査                       | している 35<br>しない 3<br>無記入 2                      |
|         |           | イ. 行動・性格の調査                      | している 10<br>内 知能 2<br>作業 1<br>しない 27<br>無記入 3   |
|         |           |                                  | ウ. 将来の希望調査                                     |
|         | エ. 家庭環境調査 |                                  | している 30<br>しない 10                              |
|         | オ. 進学適性検査 | している 21<br>内(能研1 旺文社1)<br>しない 19 |  |
|         |           | 実力テスト(模擬テスト)                     | 年間回数<br>回数 0 3 4 5 6 7 8<br>実施校 2 4 9 14 5 6 1 |
|         | 範囲の予告     |                                  | している 11<br>しない 29                              |
|         |           | 成績と進学の相関調査                       | している 34<br>しない 6                               |

調査高校47校(県下普通課程をもつ公立高校)回答40校  
名瀬地区 16, 尾張地区 4, 西三河 11, 東三河 9

D. 継続的・計画的な指導についての研究

学力差と不得意科目の調査 調査②



対象学年 高1 5教科 1000満点

授業に対する調査

調査③

|       |                   | A                  | B  | C  | D  |    |    |
|-------|-------------------|--------------------|----|----|----|----|----|
| 授業の難易 | A難しい B普通 C容易 D不明  | 84                 | 29 | 0  | 5  |    |    |
| 〃 進度  | A速すぎる B普通 C遅い D不明 | 77                 | 28 | 3  | 1  |    |    |
| 〃 方法  | A厳格 B普通 C寛大 D不明   | 53                 | 48 | 6  | 12 |    |    |
| 教     | 授業態度              | A よく理解できる 28       |    |    |    |    |    |
|       |                   | B 困 難 105          |    |    |    |    |    |
| 科     | 5教科について           | 困難な教科<br>I位 II位のもの | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|       |                   |                    | I  | 4  | 9  | 66 | 6  |
|       | II                | 18                 | 12 | 42 | 35 | 54 |    |
|       | 不得意教科             | 10                 | 7  | 67 | 10 | 15 |    |
|       | 得意教科              | 18                 | 16 | 9  | 11 | 26 |    |

「悩み」の調査

調査④

●印は都立高校調査で比較的多数のもの

高校生活における「悩み」のアンケート……該当項目に○をつける。

1. 勉強 2. 友人 3. 家庭生活 4. 学校生活 5. 自分のこと 6. 人生社会

| 項 目         |                      | 項 目                    |
|-------------|----------------------|------------------------|
| 1<br>勉<br>強 | 1 勉強のしかたがわからない 36    | ⑤●不得意科目があって困っている 79    |
|             | ②●勉強に身がはいらない 64      | 2 6●親友がえられない 31        |
|             | 3●勉強以外のことに興味をひかれる 35 | 友 ⑦●社交性がなく親しい友達ができぬ 20 |
|             | ④ うまく注意を集中できない 57    | 人 ⑧●異性に心がひかれて困る 12     |

|             |                     |    |                       |                     |    |
|-------------|---------------------|----|-----------------------|---------------------|----|
| 3<br>家<br>庭 | ⑨●●家族と話し合う機会が少ない    | 28 | の<br>こ<br>と           | 20●●劣等感つよく物事に自信もてない | 27 |
|             | ⑩●●親に何もかくせず話せない     | 23 |                       | 21 わがままで困る          | 17 |
| 4<br>学<br>校 | 11●●授業が無味乾燥でおもしろくない | 18 | と                     | 22 短気で意地っ張りである      | 24 |
|             | ⑫ 相談しやすい信頼でき教師いない   | 42 |                       | ⑭●●軽はずみでおっちょこちょい    | 49 |
| 生<br>活      | ⑬●●教官と十分話し合う機会少ない   | 46 | 6<br>人<br>生<br>社<br>会 | 24●●悩み苦しみを打ちあける人がない | 29 |
|             | 14 クラブ活動に興味をもてない    | 18 |                       | ⑮●●人生の目的がわからない      | 44 |
| 5<br>自<br>分 | 15 ホームルームがつまらない     | 25 | 26 何のために学問するのかわからない   | 31                  |    |
|             | 16 体格や容姿でひげめを感じる    | 19 | 27 時々死にたいと思う          | 22                  |    |
|             | 17 健康がすぐれない         | 13 | 28●●現在の政治が不満だ         | 25                  |    |
|             | ⑱ 意志弱く物事にあきっぽい      | 40 | ⑲●●社会が矛盾に満ち不合理だ       | 47                  |    |
|             | 19●●臆病ではずかしがりや      | 30 |                       |                     |    |

適性と傾向についての調査

調査⑤

調査④ 性格とその学部との関係

性格調査は予め次のような相反する性格についてそれぞれ10箇の質問によって実施した。

1. A—a 散慢性—粘着性      2. B—b 行動性—思考性      3. C—c 社交性—非社交性

一般的に言って①, ②, ③の各項において両者の差の少ない即ち0か-1, +1が望ましいやや-文科, 理科系統が適性であり, 3においてはすこし+が望ましい。

調査人員 146 (男96, 女50) 高2

|        | ① A — a                   |    |    |    |     | ② B — b                   |    |    |    |     | ③ C — c                                    |    |    |   |     |
|--------|---------------------------|----|----|----|-----|---------------------------|----|----|----|-----|--|----|----|---|-----|
|        | +                         |    | -  |    | 計   | +                         |    | -  |    | 計   | +  |    | -  |   | 計   |
|        | 男                         | 女  | 男  | 女  |     | 男                         | 女  | 男  | 女  |     | 男  | 女  | 男  | 女 |     |
| 0      | 9                         | 5  |    |    | 14  | 8                         | 4  |    |    | 12  | 6  | 2  |    |   | 8   |
| 1      | 9                         | 4  | 4  | 5  | 22  | 9                         | 2  | 9  | 10 | 30  | 14   | 1  | 6  |   | 21  |
| 2      | 7                         | 4  | 7  | 4  | 22  | 7                         | 3  | 13 | 10 | 33  | 7  | 5  | 6  | 4 | 22  |
| 3      | 11                        | 4  | 7  | 8  | 30  | 9                         | 2  | 6  | 4  | 21  | 10   | 2  | 5  | 1 | 18  |
| 4      | 9                         | 2  | 5  | 4  | 20  | 7                         | 1  | 7  | 1  | 16  | 5  | 6  | 4  | 2 | 17  |
| 5      | 7                         |    | 6  | 3  | 16  | 3                         | 3  | 1  | 3  | 10  | 6  | 9  | 2  |   | 17  |
| 6      | 5                         | 1  | 4  | 2  | 12  | 1                         |    | 4  | 4  | 9   | 4  | 4  | 1  |   | 9   |
| 7      |                           | 1  |    | 1  | 2   | 1                         |    | 5  | 1  | 7   | 7  | 5  | 1  |   | 13  |
| 8      | 1                         | 2  | 3  | 3  | 9   |                           | 1  | 1  |    | 2   | 1  | 5  |    |   | 6   |
| 9      | 1                         |    |    | 1  | 2   | 1                         |    | 1  | 1  | 3   | 1  | 2  |    |   | 3   |
| 10     | 1                         |    |    |    | 1   |                           |    | 3  |    | 3   |  | 1  |    |   | 1   |
| 計      | 60                        | 23 | 36 | 27 | 146 | 46                        | 16 | 50 | 34 | 146 | 71   | 42 | 25 | 8 | 146 |
| 備<br>般 | 0, ±1 ……25%<br>(科学者, 技術者) |    |    |    |     | 0, ±1 ……29%<br>思考的傾向……60% |    |    |    |     | 0, ±1 ……16%<br>男女とも温厚であたたか味<br>人とつき合う明朗さあり |    |    |   |     |

D. 継続的・計画的な指導についての研究

|        |   |  |   |   |
|--------|---|--|---|---|
| 考<br>子 | 男 | A (散漫性) がやや多い<br>物事にあきっぽく<br>興味が次々へと移る   | B (行動性) やや消極的,<br>10%くらい……考えすぎて<br>実際行動が<br>おこらない | C (社交性) 多い $\frac{2}{3}$<br>また一も多い(女子に比べて)<br>引込み思案 人間きらい |
|        | 女 | a (粘着性) が多い<br>意志がつよいようだが融<br>通のきかぬ一面がある | b (思考性) がやや多いが<br>B—bのバランスは男子<br>に比較して多い 30%      | C+7以上 26% 注意<br>非社交的な面は少ない                                |

問題と調査の方法

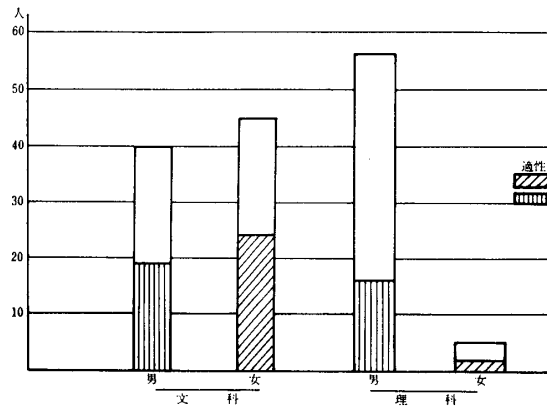
調査⑤

問題は 30問 (一般 C……10問, 文科L……10問, 理科S……10問)

調査の方法 自己判断で問題を選択 文科的傾向 20問 (C+L)

理科的傾向 20問 (C+S)

|                           | 文 科           |                             | 理 科                              |       |
|---------------------------|---------------|-----------------------------|----------------------------------|-------|
|                           | 男 子           | 女 子                         | 男 子                              | 女 子   |
| 問 題 の 選 択                 | 42%           | 90%                         | 58%                              | 10%   |
| 適 性 7 点 以 上<br>(但し理科は6以上) | 20            | 48                          | 17                               | 4     |
| 要 指 導                     | 22            | 42                          | 41                               | 6     |
| 判 定                       | 適 性<br>要指導 相半 | やや適性が多く<br>数においても男<br>子より多い | 希望多い割合に<br>適性少ない<br>希望と能力不<br>一致 | 希望少ない |



進学と指導との相関

調査⑥

3年担任用 (進路指導会議資料)

過去4年調査A組を対象

調査人数 206名

| 年度 | 昭和39 | 昭和40 | 昭和41 | 昭和42 |
|----|------|------|------|------|
| 人数 | 49   | 52   | 53   | 52   |

| 実力テスト成績 |     | 進 学 |       | 合 格 校  |        |     | 備 考             |
|---------|-----|-----|-------|--------|--------|-----|-----------------|
| 段 階     | 人 数 | 人 数 | %     | 第一希望校へ | 第二希望校へ | その他 |                 |
| A       | 18  | 15  | 83.3  | 男      | 10     | 0   | A段階<br>殆ど全員近く合格 |
|         |     |     | ①72.2 | 女      | 3      | 2   |                 |

|     |    |    |                    |   |   |    |    |                         |
|-----|----|----|--------------------|---|---|----|----|-------------------------|
| B   | 24 | 15 | 62.5               | 男 | 7 | 2  | 1  | Bやや成績おちる<br>第2 その他の希望校へ |
|     |    |    | ①29.1              | 女 | 0 | 3  | 2  |                         |
| C   | 61 | 43 | 70.4               | 男 | 4 | 13 | 11 | C第2, 第3の希望への<br>進路指導要注意 |
|     |    |    | ①16.4              | 女 | 6 | 7  | 2  |                         |
| D   | 72 | 45 | 62.5               | 男 | 7 | 4  | 9  | D希望校十分に指導の要             |
|     |    |    | ①15.3              | 女 | 4 | 11 | 10 |                         |
| E   | 16 | 8  | 50.0               | 男 | 2 | 1  | 0  | E合格すくない                 |
|     |    |    | ①12.5              | 女 | 0 | 3  | 3  |                         |
| 就 職 | 15 |    | ①の数字は第一希望校への進学率を示す |   |   |    |    |                         |

## 5. あとがき

### 調査についての反省

実態調査は進路指導の基礎資料を得るための試案であり、この調査に基づき計画がたてられ指導が行われ再調査によりその方法を繰返し検討されるべきと思う。今以上の調査の結果、考察されたとを列記すると

- ①校務分掌の中で進路指導部は設けるべきで、係として企画情報はよくやるが、各教科の連絡調整は不十分、資料保管・相談室の設置にも考慮されるべきがあった。成績等の諸調査はよく行なわれているが、進性に関する諸調査は不十分である。
- ②本校選抜の方法にもよるが上下位の能力差が確然

と表われているので画一的な指導については検討の余地がある。

- ③授業は一般にその内容が難しくその進度も速く、特に数学・英語を予想通り困難教科としているが英語をよくするもの多いのも注目することができる。
- ④第一に挙げられる「悩み」は対人関係で、友達、社交性、家族と話し合えず自我にこもりがちであり特に話し合える教官のいないことは反省させられる。次に意志の弱く軽率さを挙げ、科目についても勉強集中性ないこと不得意科目などである。
- ⑤⑥表中、備考・判定の欄で説明した。

(鈴木洋一郎)

## Ⅱ 特 活 と 進 路 指 導

### 1. はじめに

生徒の学校生活の中における特活、特にクラブ活動の占める時間的・内容的役割は非常に大きい。それにもかかわらず現状ではそれらの活動が十分に行われているとは決していい難い。特に大学進学をみざす普通課程の大部分の生徒にとってはこれは深刻な問題となっている。そこでクラブ活動が学習との関連において、どのようなつながりを持ち、どのように影響しているか、学習とクラブ活動はよくいわれるように果して両立し得ないものなのであるか、またそれについて生徒は勿論のこと保護者はどのように考えているのであろうかなどについて考えてみようとした。

### 2. 研究の経過

上に述べたような関点から過去2年間にわたっていろいろな調査を実施して検討を重ねてきたが、それについてはこれまでの紀要に発表してあるので、詳しい

資料はそれにゆずり、ここではその項目だけをとりあげてみたい。

- ① 本校クラブ活動の実態  
クラブ数、クラブ員数、クラブ成立の条件、クラブ活動規準など
- ② 41年度第1学期における各クラブ活動参加率
- ③ クラブの継続と変更  
・41年4月におけるクラブ登録時のクラブ継続と移動の状況  
・41年10月 前後期切換え時におけるクラブの移動の状況
- ④ クラブ選択の条件
- ⑤ クラブ活動と勉強との関係をどう感じているか
- ⑥ 勉強とクラブを両立させるためにクラブ活動をどのようにしたらよいか
- ⑦ クラブ活動が自由参加だったら、クラブにはいるか、はいるかないか